

飯山高校

桂雪会報

第8号

発行日

令和7年2月21日

発行人

長野県飯山高等学校

桂雪会長 宮本衡司

編集 桂雪会事務局

印刷所 (株)足立印刷所



已の年、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展を！

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 宮本 衡司（飯山北 S45年卒）

令和7年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。桂雪会員の皆様には、日頃から桂雪会の活動に対し、ご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

今年は乙巳（きのとみ）年ですが、乙（きの）は十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ち、巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされているそうです。そのため乙巳の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になるといわれています。桂雪会も飯山高校の変化に伴い、柔軟な対応が求められていくように思いますが、これまでと同様にご理解とご協力をお願い申し上げます。

顧問（元同窓会長）森司朗さんのご逝去



新年の1月8日に元桂雪会長の森司朗さんがご逝去されました。飯山北高校の桂雪会長を平成15年度から平成27年度まで務め、桂雪会の初代会長として平成28・29年度、計15年間の長きに渡って同窓会のためにご尽力をいただきました。人口減少による第一期高校再編計画の実施に当

たつては、市内3校の関係者や県教育委員会と連携し、統合を後押ししていただきました。校名や校歌・校章の選定や制作を検討した校名等選定委員会の委員長を務められたり、同窓会の統合にも積極的に行動していただいたりと、現在の飯山高校や桂雪会の礎を築いていただいたと感謝しております。趣味のゴルフはなかなかの腕前だったと聞いておりますが、近年は体調がすぐれず、入退院を繰り返していらつしやいました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします。

合宿所の改修工事完了（創立120周年記念事業の完了）

昨年実施した創立120周年記念事業の中で、唯一残っていた教育環境整備事業（合宿所の改修）がようやく今年の10月末に完了しました。飯山高校の合宿所は、平成2年に建設され、長くクラブの合宿や生徒会、文化部の活動場所としての役割を果たしてきました。ボイラー等の設備故障のため、近年は合宿所の機能は果たしておらず、内装・外装とも老朽化が激しい状態でした。ただし、文化部の貴重な活動場所であったことから、改修を行ってクラブ活動はもとより、休日の学習室や会議の会場、その他多機能な活用を図りたいということで記念事業として改修工事を実施することになりました。

ご存じの通り、厳しい社会情勢から寄附金

は目標額には及ばず、加えて計画から実施までの間に資材や建設費用の値上がりもあり、市町村の補助金のほかにも桂雪会の特別会計や甲子園出場実行委員会会計からも援助していただいて7月下旬からの工事着工となりました。

屋根の改修の際には、垂木に当たる鉄骨の積雪による変形が見えられ、急遽追加工事として補強工事を行いました。外装については屋根のオーバー工法による改修と外壁の塗装、内部については床のフローリング化と壁紙の新調、照明のLED化とエアコン設置を行い、見違えるほどきれいになりました。総額2,560万円程の費用がかかりましたが、新しくなった施設は、通称「桂雪会館」として同窓会でも有効活用しながら、飯山高校生の活動の場となるよう期待しています。

桂雪会名簿の改訂版の発行

令和2年1月に、統合記念版として桂雪会名簿の初版が発行されました。それから5年後の令和7年1月に、新しい正会員も含めた名簿が発行されました。注文された方には1月末までに手元に届いていると思います。

5年に一度の改定ということで、今回の第2版が発行されましたが、母校では、この5年の間にコロナ禍に見舞われながらも、スキー部の活躍や陸上部のインターハイ出場、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の成果として課題研究の数々のコンテスト入賞や海外との交流など様々な活躍がありました。卒業生の進路も充実した結果を残しています。また、昨年開催された飯山高等学校創立120周年記念式典や講演会、また数々の記念事業によって、2回の統合を経て完成された飯山高校を回顧し、一つの節目とすることができたことは大きな出来事でした。同窓生の皆様には貴重なご厚志をいただき無事記念事業を実施することができましたことを改めてお礼申し上げます。

第2版については「創立120周年記念

号」と題してあります。青春の3年間をこの飯山で過ごされた同窓生の皆様は、母校にとっても、この地域にとっても貴重な存在であり、皆様のお名前を掲載したこの名簿は宝物です。名簿の作成ににつきましては、近年の個人情報悪用した犯罪の数々が報道される中で、このような名簿の存在意義が問われていますが、この名簿が正しい使われ方をして、同窓生同士をつないだり、同窓生と母校をつないだりする役割を果たしてくれることを心から願っております。

SSHの成果が実る（自然科学部が世界大会に参加）

探究科及び自然科学部の課題研究は、近年素晴らしい結果を残しています。令和3年度は学生科学賞で県知事賞（第1位）、令和4年度は連続県知事賞と県議会議員賞（第2位）のダブル受賞、令和5年度は県議会議員賞、そして令和6年度は県知事賞と立て続けに最優秀となつています。全国総文祭への連続出場やSBC学校科学大賞にも連続して選ばれています。特に今年度の県知事賞を獲得した課題研究は「二酸化炭素を吸収するMBR（ミドリ・バイオ・リアクター）の開発」と題し、「全国高校化学グラウンドコンテスト」にも出場して、第2位となる科学未来賞を受賞し、台湾で開催される世界サイエンスフェアにも参加することになりました。研究結果は、地球温暖化をもたらしている二酸化炭素を、アルギン酸カルシウムのビーズに閉じ込められたミドリムシなど緑藻類の光合成によって、吸収し酸素を生成することを確認したということです。さらにその培養法も容易で、水質汚染もないことから温暖化を抑制する方法として可能性を秘めている研究ということです。このような成果を追い風に、この地域や県内外の生徒から憧れをもってもらえる学校に発展していくことを願います。また、保護者の方々にも子供の進学先として後押ししてもらえよう期待します。

生徒減による影響

令和6年度の飯水・岳北地域の中学生の卒業生数が200人を割り込むことから、飯山高校の募集定数が160人（普通科が1クラス減）となりました。令和7年度の卒業生数は再び200人を超すとはいえず、いよいよ人口減少の影響が顕著となってきました。1区には飯山高校と下高井農林高校の2校があり、ともに長い歴史をつないできました。人口減少が続く状況下で、この地域はもちろん、

他地区からの入学生も増加しないと、将来的には2校がともに寂しい状況になっていくことが心配されます。平成18年から飯山市内の3校の統合を進めてきたように、今後の対策が必要になると思われます。同窓会としても、生徒募集の後押しやこの地域における高校の将来像の検討を進めていくことが求められると思います。同窓生の皆様には、母校の行く末を見守っていただき、更なる充実発展にご協力をお願いいたします。

（令和7年1月）



伝統の土壌のもと精一杯学ぶ生徒たち

学校長 金井 繁昭

桂雪会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に對しまして多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年度は皆様のご支援ご協力により学校創立120周年記念式典が盛大に挙行され、新たな節目を迎えました。平成28年4月に市内の高校3校が完全統合した飯山高校がスタートして今年度で9年目となりますが、脈々と受け継がれる伝統の上に生徒たちは日々、勉強・部活・学校行事に励んでおります。

創立120周年記念事業においては多くの同窓生の皆様から貴重なご寄付を賜り、記念式典の挙行に加え、「高校野球発祥碑と植樹」「全国高校スキー大会総合優勝記念プレート」の設置、「昭和40年度飯山北・南男女アベック優勝記念碑の移設」を、さらに今年度は「合宿所の改修」を行っていただきました。現在の合宿所は平成2年に建築されたもので、日常のクラブ活動や合宿等に使用してきました。建築後30年以上が経過し老朽化が進んでおりましたが、改修工事を進める中で屋根の鉄骨が曲がってしまっていることがわ

かりました。かつての大雪に耐えられず変形したのと思われます。予定にない追加工事となってしまうましたが、今後も安心して使用できるよう、この点の対策も施していただき、フローリングで明るい合宿所に生まれ変わりました。「桂雪会館」と名付け、休日の生徒の自習室、クラブ活動、同窓会の会議、地域の皆様との交流等幅広く活用させていただきます。他校の合宿所も老朽化が進み使いにくくなっているものがほとんどで、使用できない状況の学校もある中、この度の改修工事で環境を整えていただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、今年度は新たに158名の新入生を迎え、計495名（令和6年5月1日現在）でスタートしています。少子化が進むなかではありますが、生徒たちが明るく、生き生きと高校生活を送っている本校の魅力をもっとPRしようということで、飯山高校公式インスタグラムで発信することを始めました。現在フォロワーが1,500名を超えています。ひとりでも多くの生徒に入学してもらえよう、更なる教育活動の充実と

PRに努めたいと考えています。

飯山高校には桂雪会の先輩方が年月をかけて大切に慈しんでくださった土壌があり、生徒たちは迷いなく学びに気持ちを向けることができます。ここで、生徒たちの活動をいくつか紹介します。

まずは文化祭です。コロナも5類になり、通常通りの活動ができるようになって2年目となりました。文化祭は前年度のものをベースにしながら、年々積み上げて作り上げていくものですが、コロナでの中断があつたため、生徒たちは従来の雰囲気、盛り上がり、ノウハウ等を知らないまま、昨年から新たな積み上げがスタートしました。特に昨年は苦労が多かったことと思いますが、今年は昨年の取り組みをベースに、さらに自分たちもお客さんも楽しむことができるものを追い求めました。新たなものをゼロから発案し実行することは様々な困難が伴います。議論を重ね答えを見出す、まさに探究的な学びの実践です。また、昨年度の反省として時間の管理ということがありました。前年の経験がないまま各種イベントを運営する中で予定通り進まず、時間が延びてしまうことも多々あります。今年驚いたのは後夜祭の後の引き際でした。全力を尽くしてやり遂げた文化祭の締めくくりの後夜祭。特に3年生は最後の文化祭です。ここからいつまでもその余韻に浸っていたいところですが、役員の生徒からの「〇〇時まではグラウンドから出てください」「荷物を持って〇〇時には校舎の敷地から出て完全下校してください」という呼びかけによって、全校生徒がその通り行動することができたのです。昨年度の反省を踏まえて、はじめの運営を目指した役員、それに協力した全校生徒。大切なものがまた一つ積みあがった場面でした。

次に生徒の積極性に感心した場面についてです。本校は文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けていますが、今年度このSSHで費用の支援を

受けながら韓国への海外研修を計画しました。韓国では主に英語でのコミュニケーションが必要です。自身の課題研究を英語でプレゼンテーションする必要もあります。この研修に10名の参加者を募集したところ、倍の20名を超える応募者がありました。やや引つ込み思案なところのある地域柄、どの位の応募があるかとも思いましたが、予想以上の応募者に正直驚きました。費用の都合で選考の上10名に絞らざるを得ませんでした。応募者全員の積極性を大いに称えたいと思います。積極性に関してもう一つご紹介いたします。先日の報道にもありましたが、本校探究科2年生の研究「二酸化炭素吸収ボールMBRの開発」が高校化学グランドコンテストで全国2位となり、台湾で行われる世界大会（台湾国際科学フェアTISE）に出場することになりました。3名の女子生徒の共同研究ですが、彼女たちが廊下に掲示されていたこのコンテストのチラシを見て、「出てみたい」と先生に申し出てきたのが出場のきっかけでした。もちろん研究の内容も素晴らしいものですが、コンテストへの出場に向けて行動を起こした積極性は素晴らしいものです。このような積極性は本校でも力を入れている「探究」の取り組みの成果と考えられます。「やりたいこと」に対して「行動を起こす」積極性は人生を切り開く大きな原動力です。生徒たちの無限の可能性を感じた場面でした。

冬本番を迎え、勉強・部活・学校行事に全力を尽くしてきた3年生は進路実現に向けて勉強に集中する姿があります。また、まもなく全国高等学校スキー大会が開催されます。今年は北海道が会場となります。選手たちは全国優勝を目指して厳しいトレーニングに励んでいます。精一杯チャレンジする諸君の健闘を祈りたいと思います。

最後になりますが、桂雪会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いするとともに、桂雪会がますます発展されることを祈念してご挨拶いたします。

創立120周年記念事業「教育環境整備事業」 ～合宿所から「桂雪会館」へ～

同窓会係 渡辺 藤夫

(1)合宿所改修の経緯

飯山高校の校地の北東の位置、自転車置き場の南側に合宿所があります。平成元年から全ての県立高校に設置された施設で、本校の合宿所は、飯山北高校の剣道場を壊して平成2年3月に建てられました。鉄骨コンクリート2階建て 延べ面積276㎡で1階は、食堂兼ミーティングルーム・トイレシャワー室・管理室、2階は研修室が2部屋ありました。当初は、新入生の合宿研修やクラブ活動の合宿に使われてきました。また、調理施設を使って、クラブやクラスの大会・行事の打上げやミーティングに使われました。

平成20年以降は、ボイラー等の故障により、合宿は行われず、主として弦楽器部・百人一首部・軽音楽同好会の練習場所として使われてきました。屋根・外壁は傷んできており、内部も痛みが激しい状態でしたが、県の改修予算もつかないことから、創立120周年記念事業として改修を行い、休日の生徒の学習室や同窓会館としての機能も加えながら有効利用しようということになりました。

(2)改修の内容と改修工事

外装については、屋根のオーバー工法によるカラー鉄板葺き、外壁は吹き付け塗装を行いました。

内部については、1階ホールの改修で、シャワー室・管理室の撤去と床のフローリング化・壁天井張り替えと照明のLED化を行いました。食堂兼ミーティングルームは床と壁はそのまま、照明のLED化とエアコンの設置を行いました。2階については、2部屋とも畳部屋でしたが、押し入れを撤去して床のフローリング化、壁天井張り替え、そして照明のLED化とエアコンを設置しました。

記念事業の計画を始めた令和3年当時の見積もりでは、2,000万円弱でしたが、その後の資材や燃料費、人件費の値上げ、そしてエアコンの設置が追加されたことから2,300万円の予算が必要となりました。120周年記念事業のための募金では、篤志寄付が約1,200万円、市町村からの補助金が200万円、120周年記念事業の残金（一般寄附による）が約100万円でした。不足分については、飯山北高校が閉校する際に桂蔭会で行った募金による飯山高校支援金から約280万円、甲子園出場実行委員会会計から必要な金額を出していただいて資金の目途が立ったことから、令和5年の7月末から改修工事を開始することができました。

順調に工事が進むかに思えた矢先、屋根の改修の際に垂木に当たる鉄骨が積雪によって変形していることが分かりました。せっかくの機会なので、トイレの洋式化も追加工事として考えていたのですが、急遽、屋根の補強工事を行う必要が出てきた為に、トイレの改修は見送りとなりました。建物の北側には、軒を支える鉄骨が2本設置されました。これにより、総額2,560万円程の費用がかかりましたが、10月末に完成しました。見違えるほどきれいになった施設は、今後、有効活用させていただきます。

【改修工事後の合宿所の様子】



会館前景



1階



2階



関係者



看板

(3)通称「桂雪会館」に

合宿所の名称については、すでに合宿所の機能をはたしていなかったことから、創立120周年記念事業の際には、「地域・教育交流会館（仮称）」としていましたが、文字数が多く、難しい名称なので「なじめない」などのご意見をいただきました。簡潔でなじみやすく愛着がわくようにと事務局で考えた結果、「桂雪会館」と名付け、学校にも了解を得ました。同窓会館の役割も果たせるように、会議を行ったり、同窓会の財産を展示したりしたいと思います。また、篤志寄付をいただいた方々の芳名板も入口に設置し、木製の看板も入口に設置する予定です。

最後に、記念事業を実施するにあたりご協力をいただいた同窓会の皆様、厳しい経済状況の中、ご寄附をいただいた皆様、そして改修工事の設計や実際に工事をしていただいた業者の皆様にお礼を申し上げ、「合宿所改修工事」完了の報告とさせていただきます。

学校の様子

◎日本学生科学賞入選

第68回日本学生科学賞において、自然科学部の2年生、大塚結愛、藤澤佳美、高藤陽菜果の3名による、「光合成できるボールMBR（ミドリバイオリクター）の開発」が、長野県代表として中央審査に臨み、2024年12月20日（金）に東京で行われた中央表彰式で入選1等（全国11位相当）に表彰されました。

日本学生科学賞とは、中学生、高校生を対象にした歴史と伝統のある日本最高峰の科学コンクールであり、物理、化学、生物、地学、広領域の5つの分野で都道府県ごとに募集し、審査を通過し、都道府県代表に選ばれた作品が中央審査とすすみます。東京の日本科学未来館で行われる中央表彰式は、例年、秋篠宮皇嗣殿下のご臨席のもと、入賞・入選者を表彰しています。今年度の応募総数は約75,000件でした。

また、自然科学部の同チームは、第19回高校化学グランドコンテスト（芝浦工業大学主催）において、化学未来賞（第2位）を受賞し、2025年1月17日～1月27日に台湾の台北で開催される「台湾国際科学フェアTaiwan International Science Fair (TISF)」に推薦され、出場しました。1月26日の表彰式では、生化学部門1位となりました。



◎SSH 韓国研修

12月9日～12月13日の日程で1・2年生10名がSSH海外研修として韓国研修に参加しました。海外研修は2019年以来5年ぶりでした。

韓国研修報告 1年4組 江尻春里

研修2日目に国立中央博物館を視察に行きました。国立中央博物館ではデジタル活用が進んでいました。午前の視察でまず最初に見たのはデジタル画面での実物大での再現です。4画面に文化財を映し出して本物だと見えにくいところも見る事ができました。次にイマーシブデジタルギャラリーという幅60m高さ5mの画面いっぱいに絵が映し出されるものです。見てる人を囲うように映し出されるので絵の中に入ったような気分になりました。最後にVRの体験をしました。体験できるものは何種類もあり、どれもリアルでその世界に入ったような感覚でした。午後は普段は入れないバックヤードで見学をさせてもらいました。バックヤードでは約44万点ある文化財を分類して保管してあります。高電圧を与えながら撮影してコンピュータで切らずに中身を見ることが出来る機械や赤外線を使った機械を使って文化財を分類していました。これらの機械はとても高額ですが、毎年国から20億ウォンの機械購入費が出るそうです。この博物館は来た人がさらに興味を持つようにデジタルを有効活用しているなと感じました。VR体験は体が不自由な人でも博物館に行かなくても文化財に触れることができるいいものだなと感じました。国からの補助金がとても多く、韓国は博物館に力を入れているのだと思いました。

◎吹奏楽部 第9回定期演奏会

6月9日（日）飯山市文化交流館なちゅら大ホールにて、吹奏楽部の定期演奏会が開催されました。大勢の観客をむかえ、1年生から3年生までの34人の部員による演奏が披露されました。

吹奏楽部部長 小田切知佳

今年の定期演奏会は「adventures」と題して、「冒険・挑戦」をテーマにしました。

第一部ではコンクール曲を演奏し、第二部ではポップスや吹奏楽を演奏しました。二部では劇も交えながら「冒険」ができるプログラムになりました。3年生によるソロ演奏は特に感動しました。本番では練習以上の演奏ができ、お客さんと共に楽しく音楽の冒険ができました！このような演奏会ができたことをとてもうれしく思います。関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



◎2025 ノルディックジュニア世界選手権代表

スキー部の4名が2月上旬開催の上記大会（ジャンプ・コンバインドはアメリカレークプラシッド、クロスカントリーはイタリアスキルパリオで開催）の代表選手となりました。

ジャンプ	坂本 季花
コンバインド	山崎詩由衣
	糸氏 琉人
クロスカントリー	松沢 意



同窓会より激励金贈呈
左より松沢、山崎、糸氏の各選手
(坂本選手は欠席)

◎第74回全国高等学校スキー大会

距離リレー 男女優勝（女子はリレー8連覇）
男子総合優勝（2年ぶり18回目）
女子総合準優勝



リレー男子
石田 翔真 駒村 隼
前田 怜和 前田 志颯

リレー女子
大場 明咲 高橋 実楽
久保田美有

同窓会レポート

飯山北高校 昭和53年卒 大同窓会 【3度目の挑戦】

桂雪会幹事長 村石 桂太郎

2017年夏頃、2つ上の中野在住の先輩から、「飯山にどこか十数人で飲めるお店はない？」という電話を頂き、「どうしたのですか」というと「60歳の還暦同窓会をやって、そのあと組に分かれて2次会をやりたいけど、飯山の飲食店を知らないの教えて」との事。その後会ったその先輩に「同窓会どうでしたか？」と聞いたら、「大成功したよ、楽しかったよ」との話を聞き、俺たち年代も60歳の還暦同窓会やるかという事でこの話が始まりました。

2018年秋に飯山近隣在住の同窓生に数人集まってもらい、各組から4人づつ幹事を募り、総勢24名で幹事会を立ち上げて同窓会の企画をしようという事となりました。5回ほど幹事会を開き、2019年10月26日(土)に開催する事に決定しました。2019年の夏には飯山高校が甲子園へ初出場した盛り上がりもあり、120名を超える参加者で開催できるはずでした。しかし10月13日未明の千曲川支流の皿川の氾濫で、市役所を含む飯山市街地が浸水するという甚大な被害が発生し、北陸新幹線や飯山線など交通機関もストップという事で、急遽開催を延期する事となりました。

その後の幹事会で、半年後の2020年5月9日(土)に再度開催する事に決定し、早めの出欠確認という事で、2回幹事会を開き2020年早々から参加募集をしました。2回目で参加者も少なくなるかなと心配しましたが、100名ほどの参加募集がありました。しかし2020年の2月頃から新型コロナウイルスが蔓延し始め、4月には緊急事態宣言も発令され、残念ながら60歳の還暦同窓会は2回目も中止となってしまった。その半年後幹事会でとりあえず先送りを決定しました。

2022年頃から新型コロナウイルス感染症も少なくなり、再度同窓会を開こうという幹事の熱い思いもあり、7回の幹事会を開催し、2024年5月11日(土)に3度目の挑戦のリベンジ開催、還暦から5年経過の「高齢者」なる節目の年に開催する事ができました。

当日は飯山高校玄関前に集合し、新しい校舎内を見学、徒歩で思い出の城山から飯山市街地を歩き、〈びっくわん〉で大懇親会を開催しました。遠方よりこの同窓会の為に来てくれた人、数十年ぶりに飯山を訪れた人、高校卒業以来初めて会う人、それぞれ旧交を温めて楽しい同窓会、思い出に残る同窓会になりました。

思えばこの同窓会開催の為に、6年間で幹事会を14～5回開催したこととなります。毎回飲み会で高校時代の思い出話をしたり、近況を話したりして、24名の幹事同士の親近感も深まったような気がします。



令和6年度 桂雪会 東京・関東支部役員会報告

高橋 彰 (高24)

今夏の異常な暑さが一息ついた令和6年11月16日、桂雪会東京・関東支部の役員会を昨年同様、原宿駅前の「南国酒家」で開催した。2年ごとに開く総会の狭間で、卒業年次を代表する役員が参加した。

副支部長の山城弘枝氏(高34)の進行のもと、昨年、支部長となった阿部靖典氏(高31)の開会挨拶で始まり、飯山高校金井繁昭校長先生(高38)から「スキー部インターハイでの女子優勝、男子準優勝をはじめ、生徒は学業、部活動で皆頑張っている。飯山高校120周年の記念事業としてこれまで部活動で使用されていた合宿所を「桂雪会館」として整備を行った。今後は会議室の利用、交流の場として有効に活用していきたい。なお残念だが、来年度は受験者数の減少見込みでクラス縮減の可能性がある。」と現状報告して頂いた。

また、桂雪会本部の宮本衡司会長からの役員会開催に寄せる祝電も紹介された。

続いて役員会議題に入り、副支部長の高橋(高24)から、本部・支部の活動を報告し、「生徒数の減少により在校生の会費で成り立つ桂雪会は今後検討が必要」等の課題を含め報告した。阿部支部長から会計報告、中島謙次氏(高41)から会計監査報告がなされた。

懇親会は、世話人として新たに加わった月岡英彰氏(高45)の進行のもと、最年長の佐々木喜之氏(高8)の乾杯で始まった。「南国酒家」自慢の中華フルコースに紹興酒も相まって、円テーブルを越えた和やかな話の輪は会場いっぱいに広がった。さらに、出席者全員が順番にマイクの前に立ち、互いの近況や桂雪会への想いを披露し会場は大いに盛り上がった。

最終盤の校歌斉唱では、山城弘枝氏のリードのもと、まだ覚えきれず最後の「～おお栄えあれ飯山高校」だけが響く飯山高校校歌、そしてお待ちかねの飯山北高校歌「甲斐の高峰に～」が高らかに歌い上げられた。最後は顧問の岡田庸利氏(高8)の一本締めで閉会し、来年の総会が盛大に開催できることを祈念して散会した。

今回は、残念ながら南高、照丘高出身の参加がなかったため、両校の校歌は唄えなかった。なお、月岡英彰氏(高45)、片桐睦月氏(高45)の若手2名が新たに支部世話人として加わるようになった。令和7年は総会の年であり、今後とも本部と連携しながら、同窓生のさらなる参加拡大を目指していきたい。



令和6年度 支部役員体制		
顧問	岡田 庸利(高8)	
	青井 富雄(高19)	
支部長・本部代議員	阿部 靖典(高31)	
副支部長・本部副会長	高橋 彰(高24)	
副支部長	山城 弘枝(高34)	
会計	藤好しのぶ(高44)	
事務局	六川 裕幸(高34)	
会計監査	中島 謙次(高18)	

令和6年度桂雪会役員

本 会 役 員		幹 事	
顧 問	岩崎 彌	幹 事 長 副幹事長	村石桂太郎
	猪瀬 清徳		小橋 浩樹
	森 司朗		山崎 美典
	(1月御逝去)		大塚 正
	関 保典		新家 智裕
	米澤 修一	幹 事	小田切 昇
	金井 繁昭		藤巻 篤
	宮本 衡司		岡田 敬幸
	内山 英樹		川久保直市
	高橋 彰		吉越 利明
上海 一徳	小山 巧		
湯本 直木	島田 和彦		
小嶋日出子	澤木 伸一		
監 事	石田 一彦		宮澤 良裕
	箕口 徳夫		湯本 武利

支部名	支部長	副支部長
飯山	上松 永林	横川 莊一 村石桂太郎 島田 和彦
秋津	石澤 一芳	丸山 朗
木島	湯本 武利	澤木 伸一
瑞穂	増山 保範	岩松 義雄
柳原	佐藤 正夫	木幡喜美子
外様	春日 早夫	春日 隆
常盤	平野 弘蔵	
太田	青木 彰	庚 繁樹
岡山	井沢 清一	田中 康一
木島平	湯本 直木	瀧澤 俊實
野沢温泉	平田 幸男	富井 裕昭
栄	森川 博	
長野	武田 芳彦	瀧澤 国夫
須高	小林 守夫	大熊 文久
豊野	米木 善登	原田 茂
中野	小林 尚人	
豊田	吉岡 典高	小橋 浩樹
津南	島田 哲宏	
県外		
東京・関東	阿部 靖典	高橋 彰 山城 弘枝 藤好しのぶ (会計)

「甲子園出場寄附金」に関する事業の報告

令和元年第101回全国高等学校野球選手権大会への出場に際して、多くの皆様方から多大なご支援をいただきましたことを改めて心より御礼申し上げます。

令和6年5月20日に飯山高校で「甲子園出場実行委員会」を開催し、今年度の以下の事業の実施について報告と了承を得ました。

(1)施設整備

動作分析ソフト 440,880 円

(2)120周年記念事業への補助

宿所改修費の補助 7,496,372 円

今後も野球部や他のクラブ、学校全体の教育活動に使わせていただきます。

「桂雪会名簿」発行について

5年ごとに発行しております同窓会名簿が令和7年1月に発行となりました。ご購入を申し込んでいただいた方に送付されております。同窓会名簿につきまして、ご不明な点は同窓会事務局までお問い合わせください。